

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年12月1日

123号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

養殖と養豚がレダ
の特産品に発展！



レダ基地の川岸に立てられた新しい看板。国際航路の船舶からもよく見え、注文が入る。



成長した養殖パクー

パクーと豚の販売を開始！

大きく青空をかき分けて滑るように、ゆっくりと、200m位に連結したバージ船がパラグアイ川を遡行して行きます。一日に何隻も行き来しています。

レダ基地の第一船着場近くの土手に大きな看板が立てられました。（写真上）可愛い絵入りで「魚パクーと豚売ります！」と書かれた看板は、バージ船には直ぐに反応がありました。彼らは10日以上もかけてパラグアイ川を上り、ウルグアイからボリビアに資材を運んで行きます。そしてまたボリビアの鉄鉱石等を積んで下つて行き、大西洋へと向かいします。

現在レダ基地では、14面の養殖池でパクーの養殖がなされ、2~3Kg程に成長したパクーから内臓を取り除き、冷凍庫に保管して、注文があれば直ぐに販売できる態勢を敷いています。活魚を求める人には、養殖池から直接捕らえて販売することもできます。

豚は放牧形式で千頭近くが飼育され、これも養豚の実験段階から、プロジェクトとして自立経営ができる方向を求めて、販売がなされることになりました。パクーは得意さんであるバージ船のみならず、オリンポ市（陸路約170Km）やバイア・ネグラ市（陸路約130Km）からもトラックで買い付けに来ます。豚も近隣の村民や、海軍、警察などが喜んで買ってゆきます。これらの飼育には、自然を保護しながらも、飼料をどう確保するかが重要です。そこで自然農業と関連させて様々な試みがされています。たとえば、水耕栽培によるタロイモ作りもその一つです。先住民も取り組んでいます。アセロラやヤシ（パルマ）の実など、パクーと豚は、共通の餌を好む傾向があります。（飯野記）

豚とパクーと「パンタナール精神」



好きな所に行って好きな物を食べる豚たち



幸せな豚は人をも癒す



豚ランドの始まり(2009年撮影)

私たち、何でも消化してしまう生き方を、しばしば「パンタナール精神」と呼びます。心身ともに大きな受容力、適応力、成長力を伴う、奉仕の精神です。パクーと豚は、その良き教材と言えましょう。(* Pacú: *Piaractus mesopotamicus*)



美味しい健康的な肉質のレダ産パクー

レダ基地で養育しているパクーと豚は、いずれも丸々として、身がよく締まっています。レダのパクーは、生きた川の水で育てられ、パラグアイ川沿岸で最も美味しいパクーとして、すでに養殖業の営まれていた町からも買い付け人がやつて来るほどです。レダの豚は広大な自然の放牧地で自由に駆け回つて、自然の恵みを存分に受けていることから、南米で最も幸せな豚と評判になり、健康的で美味しい豚肉が人々に愛されるようになりました。

担当者は、普及を目指して現地調達のできる飼料、

人類の食料と競合しない飼料での養殖・養豚を研究しています。*パクーは一名「チャンチョ・デ・リオ(川の豚)」とも呼ばれるように、雑食性で何でもよく食べ、環境変化への適応力が抜群です。ただし、汚い不健康な水で育てると、成長と味が著しく低下することが知られています。



エスペランサの小中学校教師たちに紙芝居を実演披露



カトルセ・デ・マジョの学校で紙芝居を実演する佐野氏

娯楽の少ない村で、子供たちが楽しまないが、道徳的な教育を受けられる、とても有効な手段なので、今後色々な種類の紙芝居を提供してゆく予定です。

娯楽の少ない村で、子供たちが楽しまないが、道徳的な教育を受けられる、とても有効な手段なので、今後色々な種類の紙芝居を提供してゆく予定です。

佐野氏(牛と馬の放牧担当)は、紙芝居を木枠に入れて使うように準備し、十月二八日にエスペランサと、カトルセ・デ・マジョの学校で実演し、先生や子供たちに、やり方を見せました。そして先生方が現地の言葉に訳して紙芝居を子供たちに見せられるようにプレゼントしました。

村の学校に紙芝居を提供

大自然との共生と試練

豪雨、暴風、砂塵、雷雨、日照り、チャコ地方の自然是、すべてにおいて桁違いに激しく、人が自然と共に存しようとすれば、手厳しい試練は必須です。その試練に耐え、あるいは恵みを受けて繁殖する、草木、昆虫、鳥、獣、魚たちの生命力にもまた、凄まじいものがあります。地球の一員として私たちは、生きた自然の摺理を体験し、学び、愛し、自然本来の潜在力を開発することで、生きとし生けるものにとっての福地建設を目指しています。特に現地スタッフの毎日は、地道で泥臭い努力の連続であり、時として命がけの奮闘もあります。



豚ランドの水を確保するために作った堤防が集中豪雨で決壊



上山チームが決壊した堤防を緊急修理



中田チームが必死の排水作業



道路補修作業



養殖池を守るためのポンプ作業



第一農場の雑草処理作業



居住敷地内に伸びた草

雨後は、あらゆる場所で、草がわが物顔に伸びます。ダは野生の生命力との果てしない格闘です。



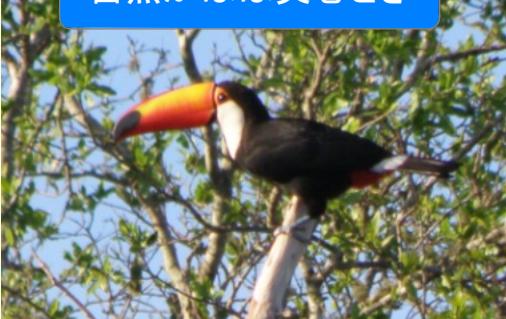
ブーゲンビリアで吸蜜



かんきつ類の花



自然がほほ笑むとき



オニオオハシ

十一月四日、神奈川県川崎市高津区の「大山ふるさと会館」において、パンタナール研修会を開催いたしました。

プログラムは、三部から構成されるパンタナール研修会の歴史。第二部は、地球の緑を守る会の代表理事である高津啓洋氏による特別講義「ここまで進んだ地球環境問題」（左の写真）。



第一部は当協会の飯野貞夫代表によるパンタナール開発の理念とその開拓の歴史。第二部は、地球の緑を守る会の代表理事である高津啓洋氏による特別講義「ここまで進んだ地球環境問題」（左の写真）。

「最近、個人的な事に心がとらわれがちだったので、意識を世界に向けていくことが重要だと考えていたときに、研修会の案内をいただき、参加させていたただきました。大変なご苦労をされたにもかかわらず、楽しそうに語られる姿に、私も常に目標と希望を持つて行きたいと思います。」（女性）

「日本の杉、檜が、人工的に植えられた木などと初めて知りました。日本固有の木を植え直すことがとても重要なだと知りました。」（男性）

「私は現在、小学校の教員をしていますが、未来を担う子どもたちに、自然の大切さ、環境に対する意識を、体験を通して育んで行くことができたらと、改めて考えさせられました。」（男性）

「ぜひとも、パラグアイに行きたかった。」（男性）

第三部は当協会の柴沼邦彦事務局長による、レダ基地の最新の発展状況と今後の展望のプレゼンテーションがなされ、それぞれパワー・ポイントで解りやすく解説されました。

参加者は、青年学生から熟年までの、男女六七名で職業や経歴もさまざま。しかし環境問題への強い関心と情熱とが質疑や懇談の場にあふれていました。

参加者の感想より



南北米福地開発協会

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話 044-829-2821
FAX 044-829-2820

会費納入 郵便口座

10180-77680471

Eメール : office@asd-nsajp
ホームページ : <http://www.asd-nsajp>

お申し込み、お問い合わせは、一枚四〇〇円です。
下記の事務局まで。

南北米福地開発協会
地球家族として
自然を守りましょう

会員募集中

会員は月五〇〇円です。毎月、パンタナール通信をお送りします。また、各種のセミナー、エコツアーや等への案内をいたします。